

古刻新韻

輯七

本草圖譜

五

〔目〕 岩崎常正

浙江人民美術出版社

古刻新韻

輯七

浙江人民美術出版社

本草圖譜

五

〔目〕 岩崎常正

本草圖譜卷之四十二目錄

穀部

蒟草ゴウソウ

ろつろちき

二

蒟草ゴウソウ

ろつろちき

三

薏苡仁イイニ

ろちき

四

一 種

ろちき

五

一 種

ろちき

一 種

ろちき

七

一 種

單瓣たんぱんろちき
白色のちき

八

一 種

單瓣たんぱんろちき
白色のちき

一 種

單瓣たんぱんろちき
白色紅邊のちき

一 種

單瓣たんぱんろちき
白色紅邊のちき

一 種

單瓣たんぱんろちき
紅色白邊のちき

一 種

單瓣たんぱん圓形で紅色
白邊のちき

一種

單瓣圓くて白色
紅邊のりもの

一種

單瓣圓くて紅色
淡紅邊のりもの

一種

單瓣くうあつ紅
色淡紅邊のりもの

一種

單瓣くうあつて
紅色淡紅邊のりもの

一種

單瓣圓くて紫色
紅邊のりもの

一種

單瓣くうあつて
紫色紅邊のりもの

一種

單瓣くうあつて
紫色紅邊のりもの

一種

單瓣くうあつて
紫色淡紫邊のりもの

一種

單瓣くうあつて
紫色淡紫邊のりもの

一種

單瓣圓くて紫
色淡紫邊のりもの

阿芙蓉

りりりやふ
西

麗春花

りりり
單紅白雜色三種
西

一種

物印忙の圖三種
五

一種

一種

本草圖譜卷之四十二

穀部

東都 岩崎常正 著

茵草

みぐさ

あつたむき

ちろむき

一名 莖

通

薺

上同

茵米

証類本草

宇田

雅

溝側或は田中再生に宿根枯すして春早く葉を生じ形細長なり。根の如く莖を抽す。或は一二尺葉互生に櫛の長き穂をなす。枝ちやうと直立し圓く扁なり。小子多く重く著く初夏熟して白く落て自生に村民子を採りて糲とす。又屠者子を採り飯とちやう食ふ。獸肉の毒の中り發熱するを解す。故まづあき等の名あり。皇守田雨雅の前注に即童梁也。一種米得數粒而易墜。蓋明年復生故謂之守田。

ミノコメ一名アツタギ 春早シ水田中ニ生ス苗小麥ニ似テ高サ二三尺穂ニ枝ヲ分テ細長キ實ヲ生ス菰米ニ似テ小ナリ四月熟ス屠者布ミサチヲ作り水田中ラ櫛ニナキ行ケバ實裏底ニ滿ツ飯トシ食フ子如彫胡ト云ニ符合ス此ニ圖スルモハ一種ミノコメトモノニシテ茵草ニアズ同名ミノ誤タルナリ



節草

こうばうまぎ

ちまうまぎ

つづみぎ

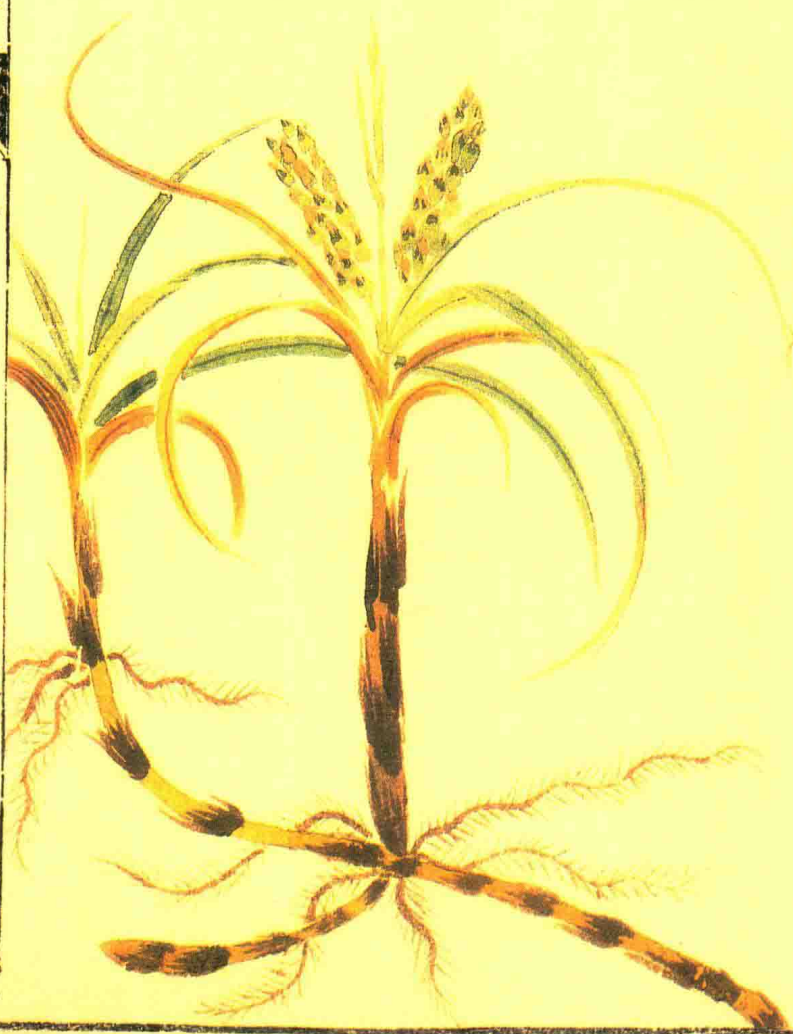
ろすまら 仙臺

マサツケ 北嶺

ルウタウシムリ

北嶺

海濱の砂地。根は節草。奥列又相列。七里濱の産。大葉あり。葉の形は
 中似て。大葉あり。葉は深緑色。又ハルナす。似て。短。夏。葉の中
 あり。穂を抽す。四五寸形。葉の如く。黄葉あり。後。葉を結。ハルマの
 如く。根。黄褐色。の鬚あり。ハ中。子。延。ハ又。一種。河。邊。ハ生。ま。る。ハ
 葉。窄。く。香。附。子。の。葉。ハ似。て。葉。ハ深。緑。色。光。澤。あり。花。実。
 同。



薏苡仁

とうもろこし

とうもろこし

とうもろこし

別

シントヨナスターニ曜

ラクレイマヨビ

和蘭

噎珠

本草和名
引食注

感米

千金方

回生米

本草

本草の薏苡仁は、漢の時に穀類を以てたつ真の物、寧ろ年中
初て渡り薬用又食料とあり、故に今も薬鋪に賣る所のもの、川
穀類より眞の薏苡仁の蜀黍に似て、穢く川穀類より似て、淺色
色に生れ、秋高に四、五尺、枝葉を合ち、其間より花実を生じ、其實大き三
分、剖り、壺の如く、下圓り、上小口あり、外殼堅く、條理あり、揉み潰
て、仁に残り、其仁は褐色の薄皮あり、肉白色あり、麝香の如く、味は淡
甘、飯に炊て、す。

一 種

ずゐたま

和名
鈔

ずゐたま

新校
正

ずゐたま

江戸

すゝと

東國

りちろ

苧蓐珠

秘傳
光鏡

川穀

本草
荒

荒野（あらの）に生（な）ず。又人家（やうか）あり。我（われ）の穀（こ）。子（こ）より生（な）ず。葉（は）の意（い）。故（ゆゑ）に苧（しよ）に似（に）て
 硬（かた）く深緑色（しんりよくしき）。秋月（あきづき）高（たか）さ四五尺（四五しち）。枝葉（えだは）を分（わ）ち花（はな）あり。玉蜀黍（たまもも）に似（に）て短（みづか）く
 其花（はな）の下（した）に子（こ）を生（な）ず。以（もつ）て子（こ）の一種（いっしゆ）。苧（しよ）と似（に）たり。薏（ぎ）故（ゆゑ）に仁（に）より大（おほ）なり。熟（じやく）
 す。其の紫黑色（むらさきくろしき）の斑（まだら）あり。穀（こ）甚（いた）く硬（かた）く碎（くだ）ず。仁（に）の中（な）に一竅（いっけう）あり。線（せん）を
 て念珠（ねんじゆ）とあす。穀（こ）中（な）に仁（に）あり。形（かたち）薏（ぎ）故（ゆゑ）に仁（に）に似（に）たり。畧（りやく）紫黑色（むらさきくろしき）を帶（おび）て
 復（また）し是（こゝに）薏（ぎ）。薏（ぎ）故（ゆゑ）に在（あ）る旨（しむ）。春（はる）生（な）ず。苗（さへ）莖（こゝろ）高（たか）三四尺（三四しち）。葉（は）如（ごと）く黍（ふ）葉（は）
 相（あひ）紅（こう）白（はく）色（しき）。作（な）り德（とく）五六月（ごろく）。結（むす）実（み）青白色（あおしろしき）。形（かたち）如（ごと）く珠子（しゆじ）。而（しか）く稍（しやう）長（なが）。故（ゆゑ）に人（ひと）
 呼（よ）ぶ。薏（ぎ）珠子（しゆじ）小兒（こゝろ）多以（おほく）銀（ぎん）穿（う）。如（ごと）く貫珠（くわんじゆ）。為（な）る戲（あそ）と。時（とき）珍（めづ）一種（いっしゆ）。圓（まる）
 而（しか）く穀（こ）。堅（かた）硬（かた）。者（もの）即（すなは）ち菩（ぼ）提（て）子（こ）也（なり）。其（こゝに）粒（つぶ）即（すなは）ち粳（かう）粳（かう）也（なり）。但（ただ）可（たが）穿（う）。作（な）念珠（ねんじゆ）
 數（かず）珠（しゆ）。故（ゆゑ）に人（ひと）亦（また）呼（よ）ぶ。念珠（ねんじゆ）と云（い）ふ物（もの）なり。

本草綱目

卷之四

目録

薏苡仁





あぶあむつたき

あむつたき





一 種

オホチヤウダキ

形状川穀 籾をニ子一子合せる 如クヤ 菊依ち相列 大峰 最
あて 川穀 籾の親がまといふ 是 籾 解 不 弘 崇 出 文 匪 者 子 最
大 彼 土 呼 爲 籾 珠 故 野 塚 在 文 匪 籾 之 戴 還 爲 籾 人 誤 也
爲 珍 珠 也 實 重 累 者 爲 良 取 仁 用 と 又 雷 震 の 詔 不 凡
便 分 用 籾 米 顆 大 無 時 時 人 呼 爲 梗 籾 是 也 と 云 々 の 子 釋
谷 子 籾 米 と 云 々

罌子粟

リ

スラップコロイト 薔 へウル 同

象穀

詔興備
急本草

鶯粟

真物
新志

秋月種を下し生し冬を經て周より莖高く四五尺葉の蔭
直ぐ似て花は赤く粉緑色三四月莖を抽く互生す樹の
頭或は葉の間より枝を分ち莖の上より青き苞を結ひ下より
漸々花を開く上を仰き苞脱し花を開く四瓣あり中心
黄蘗あり單瓣の物に朝小開きて夕に蘗解共は脱落し千瓣
の物に六五日後に經て脱落す後日を經て実大なり莢の頂より
花の如く内より小子の如くあり其子白花の白色紅紫花の黒色
あり